「塩気のなくなった塩」　2023年09月06日

「塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって味が付けられようか。土にも肥やしにも役立たず、外に投げ捨てられるだけだ。聞く耳のある者は聞きなさい。」（ルカ14：34～35）

「塩は良いものである」と言う。塩は食べ物を、味付けし、腐敗を防ぐ働きをする、確かに良いものである。それだけでなく、塩は人間の体にとって必須な養分である。塩がなくなると、命を支えることができない。更に、イスラエル人には、塩は「清め」を意味していた。レビ記2章13節に「あなたの穀物の供え物はすべて塩で味付けしなさい。あなたの穀物の供え物には神の契約の塩を欠いてはならない。あなたの献げ物には、必ず塩を添えなさい」と書かれている。また、歴代誌下13章5節には「イスラエルの神、主が、塩の契約をもって、イスラエルの王国をとこしえにダビデとその子らに与えられたことを、あなたがたは知らないのか」と書かれている。塩は人間の体に必須のもので、食べ物を豊かに味付けするだけでなく、宗教的にも、献げ物を清め、契約を聖なるものとする重要な働きをするものとして、受け止められていた。

その塩に塩気がなくなると、味付けができなくなる。塩に塩気がなくなることはない。塩はどこまでも塩である。当時の塩は、不純物が混ざっていた。塩の部分が溶けてなくなると、不純物だけが残る。そうすると、もはや、塩の働きはできない。それは、土にも肥しにもならず、ただ、捨てられるだけである。

イスラエルとヨルダンの両国にまたがる、海抜マイナス430メートルの所に「死海」がある。死海は塩の海で、塩が取れる。ソドムが硫黄の火で滅ぼされる時、振り向いてはならないと禁止されたが、アブラハムの甥ロトの妻は振り向いたために、塩の柱になったと言われている所でもある。死海の塩が住民の命を支え、食料を味付けし、献げ物、契約を清めるものとして、用いられてきたのである。

マタイ福音書の「山上の説教」の並行記事で、「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられようか。もはや、塩としての力を失い、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。（マタイ5：13）」と書かれている。この言葉で大切なことは、主イエスは「あなたがたは地の塩になれ」と要求しているではなく、あなたがたは、既に「地の塩」であると断定していることである。自分が地の塩として、社会の腐敗を防ぎ、社会を味付けしている者とは思えないが、主イエスは、前節の5章3節～10節で、8つの「～は幸いである」を宣言された。これらの宣言によって祝福を受け、命が是認されたあなたがたは、もはや地の塩であると約束してくださっている。私の力や努力ではなく、祝福されたので地の塩とされている。信仰は自分の不信仰や弱さに留まるのではなく、主イエスの言葉を感謝して受け入れ、その言葉の上に立ち続けることである。

死　海